

9 月上中旬出荷向けの黄色コギク新品種 「常陸オータムレモン」(品種登録出願中)栽培マニュアル

茨城県農業総合センター生物工学研究所・園芸研究所

1. 品種特性

- 1) 花色は鮮やかなレモン系の黄色です。
- 2) ボリューム感があり、土壌条件等でボリュームが出すぎることがあります。
- 3) 自然開花期は 9 月上中旬で、9 月彼岸前半に出荷が可能です。
- 4) 電照(夜 10 時から 4~5 時間の暗期中断)栽培による開花調節が可能で、より彼岸需要期に合わせ、開花を揃えた出荷ができます。
- 5) 花色はほ場で開花させると退色しますが、通常の切り前で生ければ問題はありません。

2. 作型 (目標収量: 3,500~4,500 本/a)

月 作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
9 月出荷						x						

(: さし芽, : 定植, x : 摘心, : 出荷)

3. 育苗

- 1) 親株は露地のビニルトンネルで越冬し、さし芽 30~40 日前に新芽を摘心したのち、発生したわき芽を 10 cm 程度、4~5 枚の葉を残して採穂します。
- 2) さし芽は排水性・保水性の良い無病の床土あるいはセルトレイ(200 穴程度)に行います。3~4 cm 間隔で 3 cm くらいの深さにさします。
- 3) さし芽後は十分に灌水し、その後 5~6 日控えます。さし芽後 1 週間はビニルと寒冷紗をかけます。
- 4) 発根後、徐々に外気と日光に当てていきます。

4. 施肥

- 1) 有機肥料や緩効性肥料を主体とした基肥を、窒素、リン酸、カリを成分で各 1.5kg/a 施用します。
- 2) 基肥と同時に完熟堆肥 200kg/a を定植 15 日前までに施用し、十分に土壌混和しておきます。

5. 定植・栽培管理

- 1) 基本はマルチ栽培で、畝間 1.2~1.4m・株間 10~12 cm・条間 30~40cm の 2 条植えとします。
- 2) 苗が十分に活着したら生長点を浅く確実に折り取って摘心し、側枝を伸長させます。
- 3) 6 月以降、生育が揃った側枝を 1 株当たり 3 本残すように整枝します。
- 4) 草丈が 20 cm 位に伸長したころ、フラワーネットを張ります。
- 5) フラワーネットは伸長に応じて上げていきます。この時、茎の中下位節から側枝が発生しやすいので注意します。

6. 病害虫防除

- 1) 無病苗を用いるとともに、病害虫の予防的防除を徹底します。
- 2) 連作を避け、窒素肥料の過多、排水不良に留意します。
- 3) わい化ウイルス病を発見したら抜き取り処分し、親株を更新します。



7. 収穫・調整

- 1) 切り前は販売先に応じたものとします。
- 2) 収穫は涼しい時間帯に行い、収穫後は萎れる前に水揚げを行います。



問い合わせ先

生物工学研究所 果樹・花き育種研究室 電話 0299(45)8330
園芸研究所 花き研究室 電話 0299(45)8341